

InstallShield 2026 リリース ノート

オリジナルリリース日 2026 年 7 月

はじめに	2
2026 R1 の新しい機能	2
強化機能	4
InstallShield 2026 R1	4
重要な情報	7
同時接続ライセンス ユーザーは、FlexNet Licensing Server ソフトウェアのアップデートが必要	8
InstallShield の評価	8
InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する	8
InstallShield の複数エディションをインストールする	9
InstallShield の複数バージョンをインストールする	9
[リリース] ビューから [NET/J#] タブおよび [MSI エンジンを含める] オプションを削除	9
InstallShield エディションの名前変更	9
プロジェクトのアップグレードに関するアラート	10
InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報	10
ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更	11
文字列のローカライズに関する考慮	11
バグ修正	11
InstallShield 2026 R1	11
システム要件	13
InstallShield を実行するシステムの要件	13
ターゲット システムの要件	14
既知の問題	15
管理者権限で InstallShield を実行した場合の VMware Workstation のネットワーク ドライブへのアクセス問題	15
64 ビット InstallScript セットアップの InstallScript オブジェクト制限	15
法的情報	16

はじめに

InstallShield はハイクオリティな Windows Installer、InstallScript ベースのインストール、および MSIX パッケージをオーサリングするための業界標準ツールです。

InstallShield 2026 では、最新テクノロジーを手軽に使用できる新しい機能、強化機能とバグ修正も提供されています。

2026 R1 の新しい機能

InstallShield 2026 R1 には、以下の新機能が追加されています:

- [Package Support Framework を使用した MSIX パッケージでの PowerShell スクリプトの実行をサポート](#)
- [WinUI ベースのウィザード ページのサポート](#)
- [カスタム フィックスアップを使用してパッケージ化されたアプリケーションにコマンドライン引数を渡すサポート](#)
- [Microsoft Entra ID 認証とカスタム SQL 接続文字列のサポート](#)

Package Support Framework を使用した MSIX パッケージでの PowerShell スクリプトの実行をサポート

InstallShield 2026 R1 は、Microsoft Package Support Framework (PSF) を使用して、MSIX パッケージに含まれる PowerShell スクリプトの実行をサポートしています。この機能により、アプリケーション ソースコードに変更を加えることなく、実行時にアプリケーションのカスタマイズと互換性アクションを実行できます。

InstallShield では、このサポート機能は、PSF config.json ファイルを使用して構成されたカスタム フィックスアップ (fixup) によって有効になります。このファイルは MSIX パッケージに含まれており、アプリケーションの実行中に Microsoft Package Support Framework によって読み取られ、処理されます。

カスタム fixup を使用すると、次を明示的に定義できます:

- PowerShell スクリプトが適用される MSIX パッケージ内の実行可能ファイル
- アプリケーション起動前 (startScript) またはアプリケーション終了後 (endScript) のいずれかで PowerShell スクリプトが実行されたとき
- 実行スコープ、可視性、エラー処理、実行タイミングなど、実行中の PowerShell スクリプトの動作

実行時に、Microsoft Package Support Framework はアプリケーションの起動ライフサイクルをインターセプト (代行受信) し、アプリケーションの起動前と終了後に、定義された実行ポイントで構成された PowerShell スクリプトを呼び出します。これにより、MSIX コンテナ内でランタイムの構成とクリーンアップ タスクが一貫して実行されます。

WinUI ベースのウィザード ページのサポート

InstallShield 2026 R1 では、アドバンスド UI またはスイート/アドバンスド UI のインストールまたはアンインストール中に表示されるウィザードページに対する WinUI フレームワークのサポートが導入されています。[\[ウィザード インターフェイス\] ビューの \[ウィザード ページ\] ノードの \[ウィザード オブ](#)

ション] 領域で、“インストールの種類” 設定に [WinUI] という新しいドロップダウン オプションが追加されました。“インストールタイプ” 設定を [WinUI] オプションに設定すると、インストーラーのユーザー エクスペリエンスをカスタマイズするのに役立つ以下の追加設定とウィザード形式 のドロップダウン オプションも有効になります:

- **WinUI フレームレスウィンドウ** – WinUI ベースのウィザード ページを標準フレームなしで表示するかどうかを指定します。選択可能なドロップダウン オプション:
 - **はい** – モダンな外観のフレームレスウィンドウに WinUI ベースのウィザードページを表示します。
 - **いいえ** – 標準ウィンドウ フレームを使用します。デフォルトで、“WinUI フレームレス ウィンドウ” 設定は [いいえ] になっています。
- **ウィザード形式** – “インストールの種類” が [WinUI] に設定されているときにウィザードページに適用する必要なビジュアル スタイルを指定します。選択可能なドロップダウン オプション:
 - **Mica** – このオプションを設定すると、Windows 11 スタイルの Mica マテリアル効果が適用され、モダンな外観になります。
 - **Mica Alt** – このオプションを設定すると、Mica Alt マテリアル効果が適用され、Mica よりも強い背景の色合いが得られます。
 - **アクリル** – このオプションを設定すると、Windows 11 Mica スタイルの代わりに Windows 10 スタイルのアクリル素材効果が適用されます。



メモ WinUI フレームワークのサポートは、*InstallShield Premier Edition* で利用できます。この機能は、*InstallShield Professional* および *InstallShield Express Edition* では利用できません。

カスタム フィックスアップを使用してパッケージ化されたアプリケーションにコマンドライン引数を渡すサポート

InstallShield 2026 R1 は、インストールされている MSIX パッケージを使用してアプリケーションが起動されたときに、コマンドライン引数をアプリケーションに渡すサポートを導入しています。この機能は、Microsoft Package Support Framework (PSF)を通じて有効になります。MSIX パッケージ化されたアプリケーションのエントリポイントはネイティブにスタートアップ引数を許可しないため、この機能により、アプリケーション自体を変更せずに起動時に必要なパラメーターを確実に提供することができます。

この機能を使うには、PSF config.json ファイルに必要な引数を定義し、MSIX プロジェクトタイプの [アプリケーションの設定] ビューの [パッケージ サポート フレームワーク] 領域にあるカスタム fixup を使用して適用する必要があります。

詳細については、*InstallShield* ヘルプ ライブラリの「[アプリケーションの設定](#)」を参照してください。

実行時に、Microsoft Package Support Framework は構成を処理し、定義された引数がアプリケーションの起動時に確実に渡されるようにします。これにより、MSIX パッケージ化されたアプリケーションの柔軟性と互換性が向上します。

Microsoft Entra ID 認証とカスタム SQL 接続文字列のサポート

InstallShield 2026 R1 は、Microsoft SQL Server データベースに接続するときに、Microsoft Entra ID (以前の Azure Active Directory) 認証をサポートします。この新しい認証は、データベース接続構成を完全に制御しながら、安全で最新の認証メカニズムを可能にします。

さらに、InstallShield 2026 R1では、[SQL スクリプト] ビュー内の SQL接続の [要件] タブに、“**接続文字列**”という新しい設定が導入されています。この新しい設定を使用すると、インストール中に使用されるデータベース サーバーの新しい接続文字列を定義したり、既存の SQL Server 接続文字列をカスタマイズしたりできます。通常、SQL サーバー接続文字列には、サーバー名、データベース名、Microsoft Entra ID ベースの資格情報を含む認証パラメーターなど、重要な接続詳細を含めることができます。

“**接続文字列**” 設定は、次の条件が満たされた場合のみ有効になります。

- [要件] タブの [カスタム接続文字列の指定] チェックボックスが選択されている。
- [要件] タブのデータベースサーバーの一覧で、サポート対象とするデータベース サーバーが選択されている。

SQL Server 接続文字列が構成され、インストール プロジェクトが保存されると、接続文字列情報は ISSQLDBMetaData テーブル ([ダイレクトエディター] ビューの [テーブル] エクスプローラーで利用可能) に自動的に格納され、インストール中の SQL スクリプトの実行中に使用されます。これによって、インストール プロセスが一貫して定義された認証方法と接続パラメーターを使用することを保証します。

“**接続文字列**” 設定には、次のような利点があります：

- Microsoft Entra ID 認証シナリオのネイティブサポート
- 安全な SQL Server 接続の構成における柔軟性の向上
- InstallShield IDE 内のデータベース接続の一元管理

強化機能

InstallShield 2026 には、以下の強化機能が含まれています：

- [InstallShield 2026 R1](#)

InstallShield 2026 R1

InstallShield 2026 R1 には、次の強化機能が含まれています：

- [カスタム デジタル署名を構成するための新しい ISCmdBld.exe コマンドライン パラメーター](#)
- [スイート GUID 値を取得する機能](#)
- [MSIX サポートを制御するための強化されたホーム メニュー](#)
- [データベースのインポートのためのカスタム SQL Server 接続文字列の定義](#)
- [Windows 11 Express バージョン 25H2 のサポート](#)
- [新しい Microsoft ランタイムとデータベースの前提条件](#)

カスタム デジタル署名を構成するための新しい ISCmdBld.exe コマンドライン パラメーター

InstallShield 2026 R1は、新しいコマンドライン パラメーターを導入してデジタル署名を強化します。これらのコマンドライン パラメーターを使用すると、カスタム署名ツールの場所を指定し、カスタム署名ツールを構成し、ビルドが生成したファイル (setup.exe) をデジタル署名する必要があるかどうかを制御できます。これらのコマンドラインパラメーターは、リリースをビルドするときに、ISCmdBld.exe コマンドライン ツールと共に使用して、必須または目的のカスタム署名ツールを使用して、setup.exe 実行ファイルがデジタル署名されていることを確認する必要があります。導入されたコマンドライン パラメータは次の通りです:

- **-customsign_path <署名ツールへのパス>** — このパラメーターを使用して、ビルドが生成したファイル (setup.exe) にデジタル署名を行うために使用されるカスタム署名ツールの場所を指定します。
例:

```
ISCmdBld.exe -customsign_path "C:\Users\Admin\Documents\sign.bat"
```

- **-customsign_args <引数>** — このパラメーターを使用して、カスタム署名ツール構成のコマンドライン引数を指定します。たとえば、

```
IsCmdBld.exe -p "C:\InstallShield 2026 Projects\MyProject1.ism" -sign_output "Y" -customsign_path "C:\Program Files (x86)\Windows Kits\10\bin\10.0.19041.0\x64\signtool.exe" -customsign_args "sign /v /a /fd SHA256 /tr http://timestamp.digicert.com /td SHA256 [filename]"
```



重要 **-sign_output "Y"** を指定することは、**-customsign_path** および **-customsign_args** パラメーターを使用するための前提条件です。

[filename] 変数は、署名を行うファイルの完全パスのプレースホルダーです。ビルド時に、署名されているバイナリの完全パスに解決します。既定では、ファイル パスは引数リストの最後に追加され、カスタム署名ツールに渡されます。ハードコード化されたパスを使用する代わりに、プロジェクトで定義されているパス変数、環境変数、またはプロパティ名を使用することができます。

- **-sign_output <Y/N>** — ビルドが生成したファイル (setup.exe) をデジタル署名する必要があるかどうかを指定するには、このパラメーターを使用します。たとえば、次のコマンドラインを使用してデジタル署名を有効にできます。

```
ISCmdBld.exe -sign_output "Y"
```

これらのパラメーターは、デフォルトの InstallShield 署名メカニズムが特定の組織またはセキュリティ要件を満たしていない可能性がある CI/CD 環境での自動ビルド パイプラインにとって特に有益です。

詳しい情報は、*InstallShieldヘルプ ライブラリ* の「**ISCmdBld.exe**」を参照してください。



メモ この変更は ISDEV-44198 として記録されています。

スイート GUID 値を取得する機能

InstallShield 2026 R1は、新しい installScript 関数 **SuiteGetGuid** を導入しました。これにより、アドバンスト UI またはスイート/アドバンスト UI プロジェクトを使用して構成された実行中のスイート インストーラーに関連付けられたスイート GUID 値の取得が可能になります。

この関数は、スイート プロジェクト内の InstallScript アクションから呼び出すことができます。インストール中に実行されると、実行中のスイート インストーラーのスイート GUID を取得し、さらに処理するために文字列変数に値を格納します。この機能強化により、スイートベースのインストールにおいて柔軟性が向上し、インストール時に開発者がスイート GUID の値にプログラムからアクセスできるようになります。

詳細については、*InstallShield ヘルプ ライブラリ*の「SuiteGetGuid」を参照してください。



メモ この変更は ISDEV-43853 として記録されています。

MSIX サポートを制御するための強化されたホーム メニュー

InstallShield 2026 R1 には、メニューバーの [ホーム] タブの [MSIX] セクション (InstallShield ユーザーインターフェイスの上部)に、[MSIX の有効化] という新しいチェックボックスが追加されています。

[MSIXを有効にする] チェックボックスを使用すると、[ホーム] タブから現在のプロジェクトの MSIX パッケージ サポートを次のように直接制御できます:

- このチェックボックスを選択すると、[MSIX]セクションの [ビルド]、[実行]、[アンインストール] アイコンが同時に有効になります。
- このチェックボックスをクリアすると、[MSIX]セクションの[ビルド]、[実行]、[アンインストール] アイコンが同時に無効になります。

このチェックボックスは、プロジェクトで MSIX パッケージを作成するように構成されている場合に使用できます。この機能はまた、すべての MSIX 関連アクションを 1 つのステップで有効または無効にすることでワークフロー管理を簡素化し、一貫性と使いやすさを確保します。



メモ [MSIX の有効化] チェックボックスは、基本の MSI プロジェクトでのみ使用できます。



メモ この変更は ISDEV-44874 として記録されています。

データベースのインポートのためのカスタム SQL Server 接続文字列の定義

InstallShield 2026 R1 を使用すると、[SQL スクリプト] ビューの [データベース インポート ウィザード] ダイアログボックスの "サーバー名" フィールドに指定された Microsoft SQL Server インスタンスに接続するために使用される既存の SQL Server 接続文字列を上書きまたは更新できます。この構成は、Settings.xml ファイルの <SQLScripts> ノードの下にカスタム SQL Server 接続文字列を定義することで実現されます。このファイルは、通常、プロジェクト ディレクトリまたはユーザー プロファイルの InstallShield 構成フォルダーの下に保存されます。このファイルにカスタム SQL Server 接続文字列を明示的に追加または定義することにより、インポート処理中に InstallShield がデータベース接続を確立する方法を制御できます。

この強化は、最新の認証メカニズムである Microsoft Entra ID 認証 (旧 Azure Active Directory) をサポートするために特に重要です。InstallShieldは、Microsoft Entra ID 認証に必要なものを含む適切な接続文字列パラメーターを組み込むことで、高度な ID ベースのアクセス制御を強制する SQL Server インスタンスに安全に接続できます。



メモ Microsoft Entra ID 認証のサポートは、Microsoft SQL Server 2022以降のバージョンを使用する場合のみ利用できます。Microsoft SQL Server の以前のバージョンでは、この認証方法に必要な機能は提供されていません。



メモ この変更は ISDEV-45055 として記録されています。

Windows 11 Express バージョン 25H2 のサポート

InstallShield 2026 R1 を使って、Windows 11 バージョン 25H2 のインストール条件を構成することができます。



メモ この変更は ISDEV-45127 として記録されています。

新しい Microsoft ランタイムとデータベースの前提条件

InstallShield 2026 R1 では、[アプリケーションデータ] ビューの [再配布可能ファイル] エクスプローラーで次の前提条件が使用できるようになりました:

- Microsoft .NET Core 10.0 ランタイム
- Microsoft Visual C++ 2017-2026 再配布可能パッケージ (x64)
- Microsoft Visual C++ 2017-2026 再配布可能パッケージ (x86)
- Microsoft SQL Server 2025 再配布可能ファイル (x64)

これらの前提条件により、ターゲットシステムに必要な Microsoft テクノロジーが未インストールの場合にそれらをインストールできるようになり、アプリケーションの正常な実行に必要なランタイム コンポーネントが確保されます。



メモ これらの変更は ISDEV-44897、ISDEV-45107 および ISDEV-44984 として記録されています。

重要な情報

InstallShield 2026 リリースに関する次の重要な情報に注意してください:

- 同時接続ライセンス ユーザーは、FlexNet Licensing Server ソフトウェアのアップデートが必要
- InstallShield の評価
- InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する
- InstallShield の複数エディションをインストールする
- InstallShield の複数バージョンをインストールする
- [リリース] ビューから [.NET/J#] タブおよび [MSI エンジンを含める] オプションを削除
- InstallShield エディションの名前変更

同時接続ライセンス ユーザーは、FlexNet Licensing Server ソフトウェアのアップデートが必要

InstallShield の同時接続ライセンスを使用する場合、InstallShield 2026 を使用する前にライセンス サーバー上の FlexNet Licensing Server ソフトウェアのバージョンをアップデートする必要があります。

InstallShield の以前のバージョンと共に出荷された FlexNet Licensing Server ソフトウェアのバージョンでは、InstallShield 2026 のライセンスを管理することはできません。これらのライセンスが使用可能な場合でも、InstallShield 2026 は古いバージョンのライセンス サーバーからライセンスをチェック アウトしません。



メモ FlexNet Licensing Server ソフトウェア v11.19.0 で、InstallShield 2025 および InstallShield 2026 のライセンスを管理することができます。InstallShield 2025 から InstallShield 2026 にアップグレードすると、既存する FlexNet Licensing Server ソフトウェア v11.19.0 を使用できるようになります。InstallShield 2021 以前のバージョンからアップグレードする場合、FlexNet Licensing Server ソフトウェアを v11.19.0 にアップグレードする必要があります。

FlexNet Licensing Server ソフトウェアの最新版は、[Revenera 製品 & ライセンス センター](#)からダウンロードできます。

FlexNet Licensing Server ソフトウェアのインストール手順については、「[同時接続ライセンス用のライセンス サーバーを設定する](#)」を参照してください。

InstallShield の評価

InstallShield のライセンスを購入していなくても、InstallShield をインストールしてアクティベーションを行わず、またはライセンス サーバーに接続せずに一定の期間使用することができます。アクティベーションを行わず、またはライセンス サーバーに接続せずに使用すると、InstallShield は一部の機能が制限された評価モードで起動します。詳細については、「[InstallShield 評価版の機能制限について](#)」を参照してください。評価版の制限は、InstallShield がアクティベートされたとき、またはライセンス サーバーに接続して、そのライセンスがチェックアウトされたときに解除されます。



メモ InstallShield 2023 から 2023 まで、Professional Edition は「InstallShield Edition」と、Premier Edition は引き続き「InstallShield Premier」と呼ばれていました。InstallShield 2024 より、「InstallShield Edition」が「InstallShield Professional」に戻ります。

InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する

次のインストールは、[\[InstallShield のダウンロードおよびライセンスの使用\]](#) に記述されている通り、Revenera 製品 & ライセンス センターからダウンロードが可能です：

- InstallShield
- 再配布可能ファイル（例えば、InstallShield 前提条件および InstallScript オブジェクト）
- Standalone Build、および InstallShield MSI ツールなどのアドオン（使用可能な場合）

- FlexNet Licensing Server ソフトウェア (同時接続ライセンスを購入した場合で、組織のライセンスサーバーを設定する必要がある場合)
- スキン カスタマイズ キット
- InstallScript オブジェクトのテンプレート
- InstallShield サービス パック (使用可能な場合)



メモ InstallShield 2021 より、Collaboration Edition (DIM エディター) が使用できなくなりました。

InstallShield の複数エディションをインストールする

同じシステム上に InstallShield 2026 Premier Edition または Professional Edition のどちらか 1 つのエディションのみをインストールすることができます。

Microsoft Visual Studio の統合は 1 回につき InstallShield の 1 バージョンとのみ可能です。システムで最後にインストールまたは修復された InstallShield のバージョンが Visual Studio の統合に使用されます。

InstallShield の複数バージョンをインストールする

InstallShield 2026 は、同じマシン上で別のバージョンの InstallShield と共存することができます。

InstallShield 2026 Standalone Build は、別のバージョンの Standalone Build と同じマシン上に同時にインストールすることができます。ほとんどの場合、InstallShield がインストールされているマシン上に Standalone Build がインストールされることはありません。InstallShield と Standalone Build を同じマシン上にインストールしてオートメーション インターフェイスを使用するには、InstallShield ヘルプ ライブラリの「[Standalone Build と InstallShield を同一のマシン上にインストールする](#)」を参照して、特別な登録およびアンインストールについて考慮すべき点に留意してください。

[リリース] ビューから [.NET/J#] タブおよび [MSI エンジンを含める] オプションを削除

[インストール デザイナー] の [メディア] ビューに表示される [リリース] エクスプローラーで、[.NET/J#] タブおよび [MSI エンジンを含む] オプションには .NET 1.1/2.0, Windows Installer 3.1 および J# 再配布可能ファイルのサポートが提供されていました。これらの古いテクノロジーは、Microsoft によるサポートが停止されました。これに伴い、InstallShield 2023 のすべてのエディションから、[インストールデザイナー] の [メディア] ビューに表示される [リリース] エクスプローラーで、[.NET/J #] タブおよび [MSIエンジンを含む] オプション (並びに関連する [.NET 1.1/2 .0コア言語] と [.NET 1.1/2 .0 言語パック] ダイアログボックス) が削除されました。InstallShield 2023 以降のビルド タスクは、古いバージョンのプロジェクトファイルでこれらのオプションが検出されても無視します。

InstallShield エディションの名前変更

InstallShield 2020 およびそれ以前のリリースで、InstallShield には次の名前の 2 つのエディションがありました:

- InstallShield Professional Edition
- InstallShield Premier Edition

InstallShield 2021 から 2023 まで、**Professional** Edition が **InstallShield** Edition に変更され、次の 2 つのエディションがありました:

- InstallShield Edition
- InstallShield Premier Edition

InstallShield 2024 から、エディション名が Professional Edition および Premier Edition に戻りました。

- InstallShield Professional Edition
- InstallShield Premier Edition

プロジェクトのアップグレードに関するアラート

以下は、InstallShield 2016 および以前のバージョンで作成されたプロジェクトを InstallShield 2026 にアップグレードする際に発生する可能性のある問題についての情報です。また、新しい InstallShield 2026 プロジェクトと InstallShield 2016 および以前のバージョンから InstallShield 2026 にアップグレードされたプロジェクト間の潜在的な動作の違いについてもアラートします。

- [InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報](#)
- [ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更](#)
- [文字列のローカライズに関する考慮](#)

InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報

InstallShield で変換が行われる前に、例えば .777 (.ism プロジェクトの場合) または .2016 (.issuite プロジェクトの場合) というファイル拡張子が付加されたプロジェクトのバックアップ コピーが作成されます。以前のバージョンの InstallShield でこのプロジェクトを再度開く場合、元のプロジェクトのファイル名から .777 または .2016 を取り除いてください。

InstallShield 2016 以前、InstallShield 12 以前、InstallShield DevStudio、InstallShield Professional 7 以前、および InstallShield Developer 8 以前のバージョンの InstallShield で作成された既存プロジェクトを InstallShield 2026 にアップグレードできます。



メモ 次の情報を参考にして下さい:

- *InstallShield 2026 プロジェクトを以前のバージョンの InstallShield で開くことはできません。*
- *InstallShield MultiPlatform または InstallShield Universal で作成されたプロジェクトは InstallShield 2026 にアップグレードすることはできません。*

ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更

すべてのプロジェクト タイプで、InstallShield で生成されたインストールを実行するためにターゲット システムに必要な Windows の最小バージョン要件は Windows 7 および Windows Server 2008 R2 です。

文字列のローカライズに関する考慮

InstallShield 2016 から、ローカライズ済み文字列の検出と受け渡しに関する変更が行われました。たとえば、無効な文字のまわりに角括弧が付けられたローカライズ済み文字列のコンテンツは、ビルド時の警告またはエラーを引き起こします。そのため、インストールの作成作業中に次の新しい警告やエラーが発生する場合があります。

エラー/警告番号	Message	トラブルシューティング情報
-7355	文字列 %2 の値 %4 は、テーブル %1 列 %3 の検証基準を満たしていません。	この警告は、ローカライズされた文字列が文字列エディター テーブル内の列の検証基準を満たしていない時に発生します。この警告を解決するには、文字列エディター内のフラグされた値を更新してください。
-7354	文字列 %2 の値 %4 は、テーブル %1 列 %3 では使用できません。	このエラーは、ローカライズされた文字列が文字列エディター テーブル内の名前付き列に有効な値が含まれていないときに発生します。このエラーを解決するには、文字列エディター内のフラグされた値を更新してください。

バグ修正

このセクションには、InstallShield の以下のバージョンで修正された顧客の問題が掲載されています:

- [InstallShield 2026 R1](#)

InstallShield 2026 R1

次の問題が、InstallShield 2026 R1 で修正されました:

問題番号	問題の概要
ISDEV-44875	setup.exe/tempextractpath "C:\IS_temp" コマンドを使用して、PowerShell スクリプト ファイルを抽出し、指定されたカスタムディレクトリに追加できませんでした。代わりに、これらのファイルは Windows の既定の一時ディレクトリに抽出されました。この問題は解決されました。

問題番号	問題の概要
ISDEV-44914	SdAskOptions 関数を使用して作成されたダイアログは、[リリース] エクスプローラーの [ビルド] タブにある “アーキテクチャ” 設定が [x64] オプションに設定されているときに、インストール オプションを表示できませんでした。この問題は解決されました。
ISDEV-44975	RegDBQueryKey 関数は、そのサブキーのレジストリキーにアクセスできず、[リリース] エクスプローラーの [ビルド] タブにある “アーキテクチャ” 設定が [x64] オプションに設定されている場合、-1を返しました。この問題は解決されました。
ISDEV-44951	InstallScript インストールの実行後に生成されたログファイルには、切り捨てられた文字列が含まれていました。この問題は解決されました。
ISDEV-44692	LaunchApplication 関数を含む 64 ビットの InstallScript setup.exe を起動すると、クラッシュが発生しました。この問題は解決されました。
ISDEV-44981	InstallShield 2023 R2 キットにセキュリティ上の脆弱性が見つかりました。この問題により、標準ユーザーは権限の昇格 (SYSTEM レベルのアクセス) につながるアクションを実行し、ターゲット システムのセキュリティが侵害されました。この問題は解決されました。
ISDEV-44951	文字列が切り捨てられた問題が、 InstallScript ログファイルで確認されました。この問題は解決されました。
ISDEV-44943	SdLicense2Ex 関数を使用してビルドされた InstallScript プロジェクトを実行すると、インストール中に次のエラーが表示されました。 関数 ‘Sdlicense2Rtf’: ダイアログを作成できません。 この問題は解決されました。
ISDEV-44932	LaunchAppAndWait 関数を使用して 64 ビット InstallScript カスタムアクションを起動するときにエラーが発生しました。この問題は解決されました。
ISDEV-44926	ServiceGetServiceState 関数と共に配列データ型を使用して x 64 アーキテクチャに InstallScript プロジェクトを構成すると、インストールに失敗しました。この問題は解決されました
ISDEV-45046	管理者権限を使って SdAskDestPath 関数を含む 64 ビット InstallScript インストーラーを起動すると、 SdAskDestPath ダイアログが有効な宛先フォルダーを受け付けず、選択したパスが無効、不完全、または書き込み保護されていることを示すエラーが表示されました。この問題は解決されました。

問題番号	問題の概要
ISDEV-44748	Window 11 24H2 マシンで、ライセンス契約の印刷が失敗し、次のエラーメッセージが表示された問題が発生しました。 このファイルには、このアクションを実行するためのアプリが関連付けられていません。アプリをインストールするか、既にインストールされている場合は、[既定のアプリ設定] ページで関連付けを作成してください。 この問題は解決されました。
ISDEV-45170	マップされたネットワーク ドライブ（例、X:）から起動したときに、setup.exe がコマンドライン引数を認識および処理できなかった問題が確認されました。その結果、サイレント インストール スイッチやカスタム構成オプションなど、コマンドラインを通じて提供されたインストール パラメーターは無視されました。この問題は解決されました。
ISDEV-44759	[セットアップのデザイン] ビューで、サブ機能の "表示" 設定が [表示しない] に、"アドバタイズ" 設定が [アドバタイズを許可しない] に設定されている場合、サブ機能の並べ替えを保存できませんでした。この問題は解決されました。
ISDEV-45022	インストーラーは、インストーラー ファイルが抽出された /temp ディレクトリから前提条件を実行できませんでした。代わりに、ハードコード化されたパスから実行しようとした。この問題は解決されました。

システム要件

このセクションでは、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システム（ランタイム環境）の要件、ならびに InstallShield を実行するために必要なシステム（オーサリング環境）の要件が説明されています。

- [InstallShield を実行するシステムの要件](#)
- [ターゲット システムの要件](#)

InstallShield を実行するシステムの要件

InstallShield は、これらのオペレーティング システムの最も新しいパッチおよびサービス パックが適用されている最新版で実行します。

項目	説明
プロセッサ	Pentium III クラスの PC (500 MHz 以上を推奨)
RAM	1 GB の RAM (2 GB 推奨)
ハードディスク	1 GB 空き領域
ディスプレイ	1024 x 768 (XGA) 以上の解像度

項目	説明
オペレーティング システム	- Windows Server 2012 R2 - Windows 10 - Windows Server 2016 - Windows Server 2019 - Windows 11 - Windows Server 2022 - Windows Server 2025
権限	システムの管理者権限
マウス	Microsoft IntelliMouse、またはその他の互換性があるポインティング デバイス
InstallShield と Visual Studio との統合 (オプション)	Microsoft Visual Studio の以下のバージョンを InstallShield Premier Edition または Professional Edition に統合することができます: - Visual Studio 2012 - Visual Studio 2013 - Visual Studio 2015 - Visual Studio 2017 - Visual Studio 2019 - Visual Studio 2022 Visual Studio のこれらのバージョンの以下のエディションは、InstallShield Premier または Professional Edition に統合することができます: - Professional - Premium - Ultimate - Enterprise

ターゲット システムの要件

ターゲットシステムで次の最小オペレーティング システム要件を満たす必要があります:

- Windows 7
- Windows Server 2008 R2
- Windows 8
- Windows Server 2012
- Windows Server 8.1

- Windows Server 2012 R2
- Windows 10
- Windows Server 2016
- Windows Server 2019
- Windows 11
- Windows Server 2022
- Windows Server 2025

ターゲット システムで、SSE2 インストラクション セットがサポートされていることが必須です。

既知の問題

InstallShield 2026 の既知の問題は次の通りです:

- [管理者権限で InstallShield を実行した場合の VMware Workstation のネットワーク ドライブへのアクセス問題](#)
- [64 ビット InstallScript セットアップの InstallScript オブジェクト制限](#)

管理者権限で InstallShield を実行した場合の VMware Workstation のネットワーク ドライブへのアクセス問題

VMware Tools を使用して構成された VMware Workstation のマップされたネットワークドライブに標準ユーザーはアクセスできますが、管理者権限で実行する InstallShield がアクセスできなくなります。

詳細は、Revenera Community の「[A network drive mapped in VMware Tools is accessible only to Standard users, blocking access for InstallShield running as Administrator](#) (VMware Tools でマップされたネットワーク ドライブが標準ユーザーのみアクセス可能で、管理者として実行する InstallShield のアクセスがブロックされる)」を参照してください。



メモ この問題は ISDEV-44315 として記録されています。

64 ビット InstallScript セットアップの InstallScript オブジェクト制限

InstallScript オブジェクト プロジェクトは、64 ビット InstallScript セットアップでサポートされていません。InstallScript オブジェクトが含まれている 64 ビット (x 64) アーキテクチャをターゲットとした InstallScript プロジェクトをビルドしようとする、ビルドタイム エラーが発生します。



メモ この問題は ISDEV-44640 として記録されています。

法的情報

著作権情報

Copyright © 2026 Flexera Software. All Rights Reserved.

この出版物には、Flexera Software およびそのライセンサーによって所有されている機密情報、創造的な製作物が含まれています。本出版物の一部または全部を、Flexera Software からの事前の書面による明示的許可なしに、使用、複製、出版、配布、表示、改変または転載することはいかなる形態または手段を問わず厳重に禁止いたします。Flexera Software によって書面で明示されている場合を除き、この出版物の所有は、禁反言、黙示などによっても、Flexera Software が所有するいかなる知的財産権の下、ライセンスまたは権利を一切付与するものではありません。

本テクノロジーおよびそれに関する情報のすべての複製は Flexera Software より許可されている場合に限り、著作権および所有権に関する通知を完全な形で表示しなければなりません。

知的財産

Flexera Software が所有する商標および特許の一覧は、<https://www.revenera.com/legal/intellectual-property.html> を参照してください。フレクセラ・ソフトウェア製品、製品ドキュメント、およびマーケティング資料で言及されているその他すべてのブランドおよび製品名は、各社の商標または登録商標です。

(米国内向け) 制限付権利に関する表示

本ソフトウェアは商業用コンピュータ ソフトウェアです。本ソフトウェアのユーザーまたはライセンス許可対象者が米国政府の代理、部署、その他の関連機関の場合、ソフトウェアまたは技術データおよびマニュアルを含むすべての関連文書の使用、複写、複製、開示、変更、公開、または譲渡に関して、ライセンス契約または本契約の条項ならびに民生機関については連邦調達規則第 12.212 条または軍事機関については国防連邦調達規則補遺第 227.7202 条による制限が適用されます。本ソフトウェアは完全に自費で開発されたものです。その他一切の使用は禁止されています。